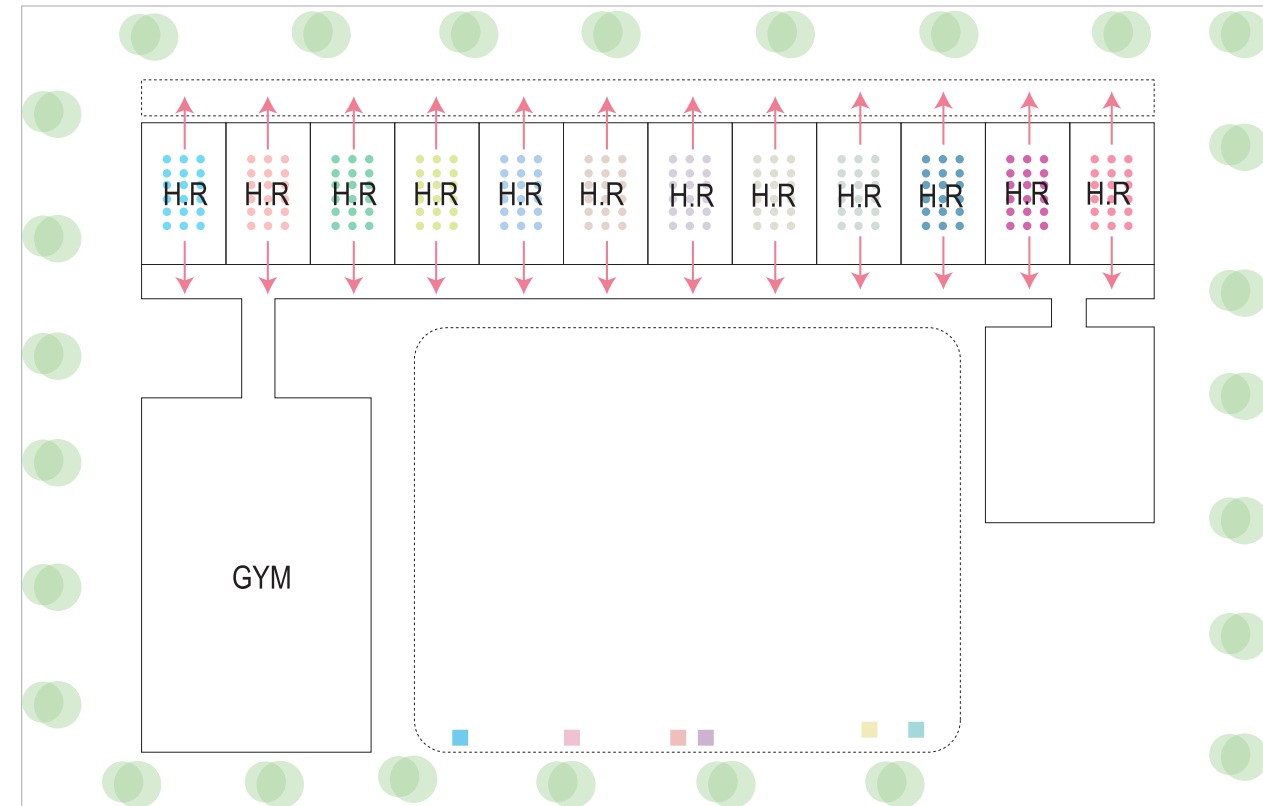
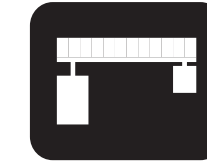


Kinds-Garden



■ 記号化された幼稚園



南側に園庭を配置することで、建物のボリュームはコの字型になることが多い。この形態は南側からの均一な採光は保証できるが長い廊下とハーモニカ型教室群に陥りやすい。この合理的な配置計画は管理側からの利点はあるが、好奇心が旺盛な園児たちにとって「自主性」をも制限していると感じられる。

園児の「自主性」が期待される中で、機能が明確にされた幼稚園は建築空間そのものの期待よりソフト的な解決でしかなされていないのが現状である。

「多様な空間で、子供の自主性を育てる」

明確に機能を与えられた空間での決められた活動では、幼児の自主性は育たないと考えました。よって、この保育園には室名がありません。

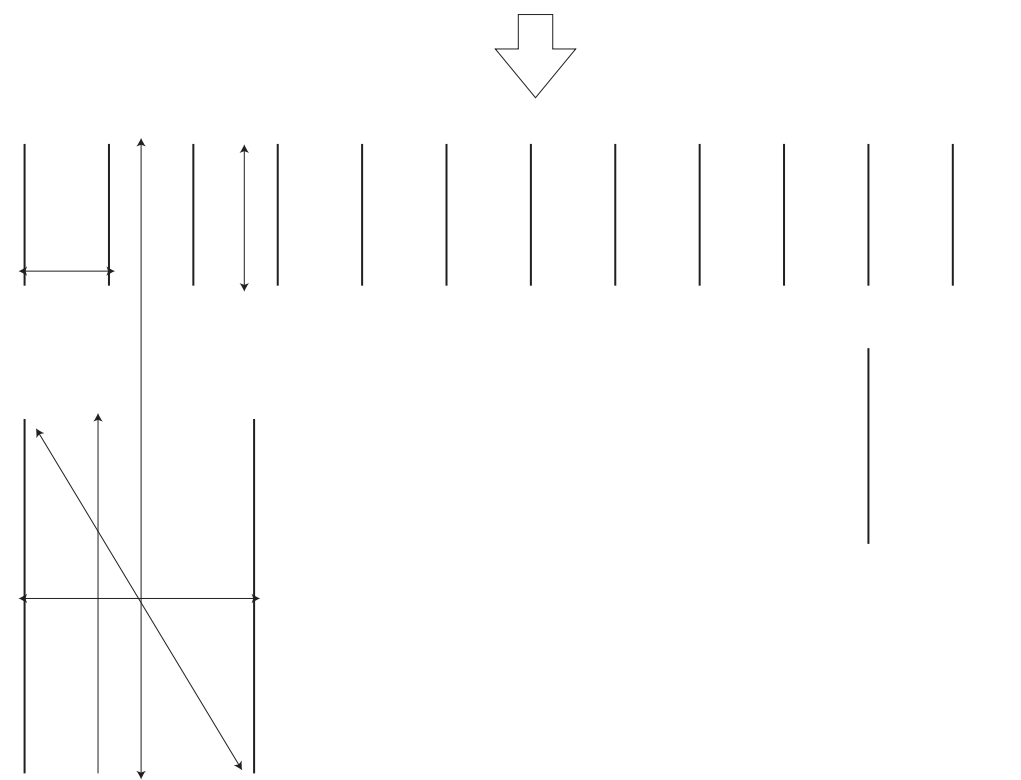
敷地全体に広がった床（フィールド）には壁が不規則に並んでいます。

壁と壁に挟まれる事によって認識する「無意識な領域」が子供達にそ「行為」を喚起させて初めて、「居場所」に変わります。

つまり、それこそが我々の提案する「自主性と空間の一致」です。

壁や屋根によって産み出される多様な空間は子供達の自主性を刺激し、予想もしない「居場所」をつくり出してくれることでしょう。

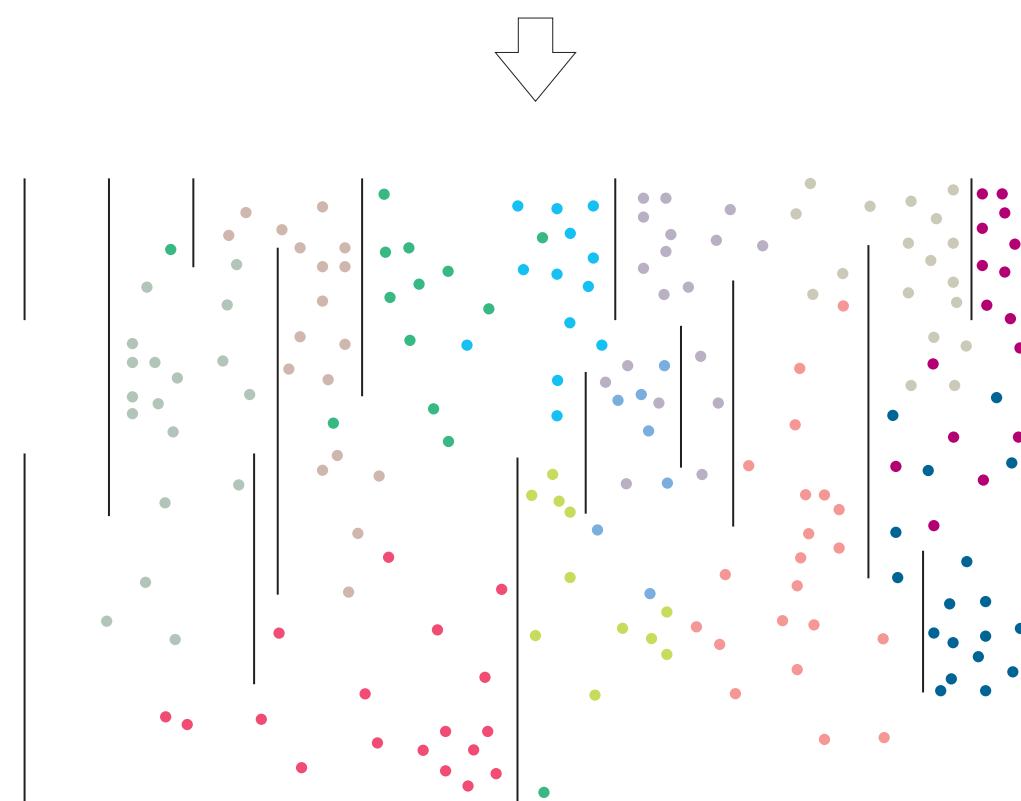
そして、その「居場所」で生まれた「自主性」は幼稚園というフィールドを越え、社会へ、そして、未来へと広がっていくことでしょう。



■ 分節化する壁

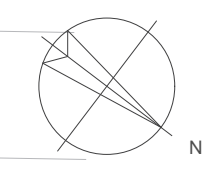
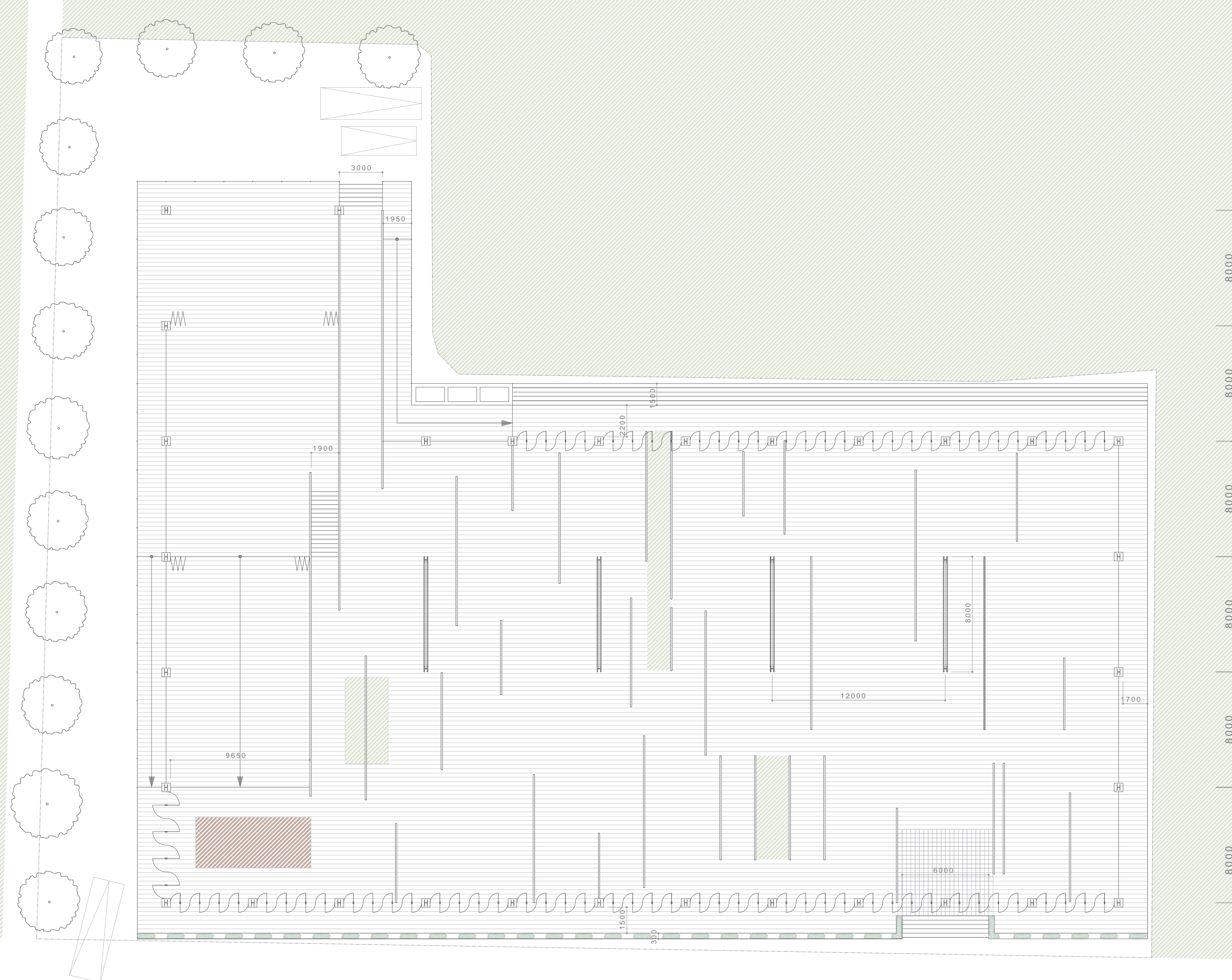


空間を構成していた壁だけを抽出してみた。（例えば、教室の壁、職員室の壁、体育館のかべそして、それらの壁によって挟まれてできた廊下など）この壁のもつ性格が幼稚園の中に、明確な機能を持った空間へ分節していると考えた。その構成から無意識な境界が感情として現れ、園児たちの意識をも自粛させてしまったと考えます。

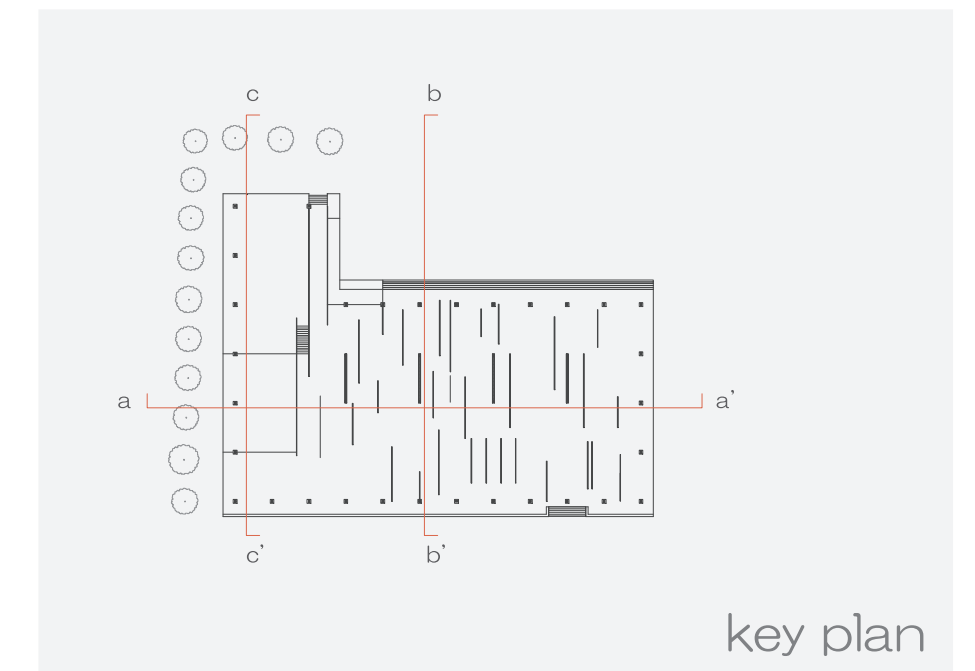
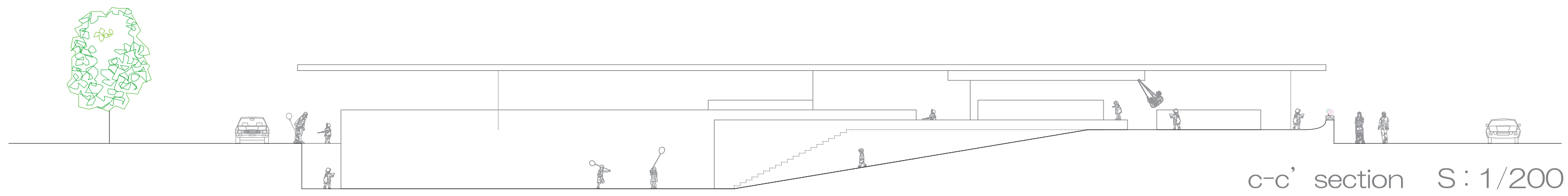
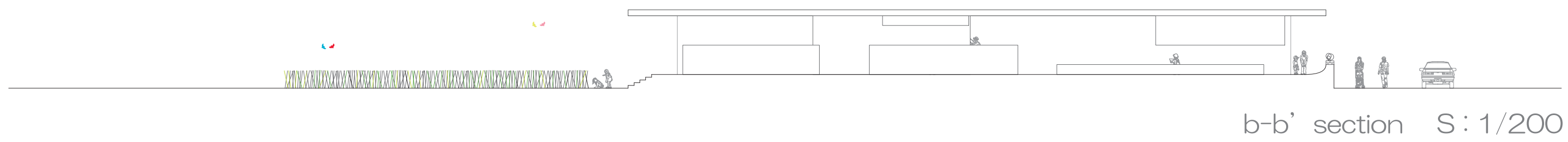
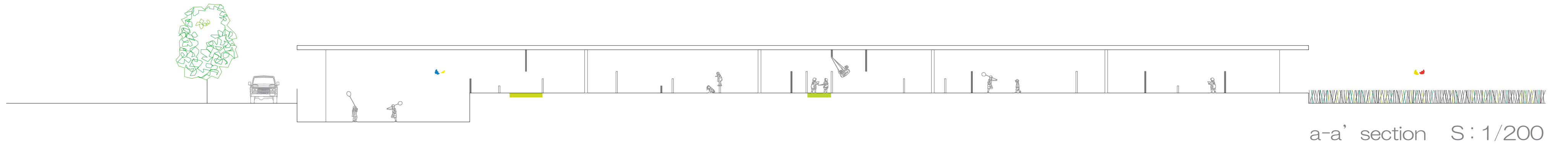
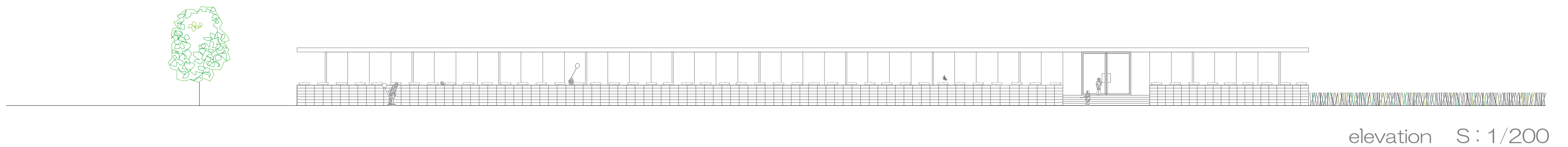


■ 透明化する壁

ここで用いる「透明化」というのは素材が透過であるといった状態を指すのではなく身体的、感覚的に用いる「把握する」「見通せる」という概念の事である。分節化していた壁を延長させ、入れ子状にすることであいまいな領域が生まれる。一体どこまでが部屋として機能するのか、はっきりとした境界がそこには存在しなくなる。壁によって作り出された空間は全てが等価な存在として出現したことになる。これまで、明確な空間の中で行われていた行為が滲み出し、空間・行為・人が交じり合うことで自然と領域を創り出す。初めて集団で生活する園児たちにとって、透明化された環境の創出が自主的な行動のきっかけとなることを期待している。

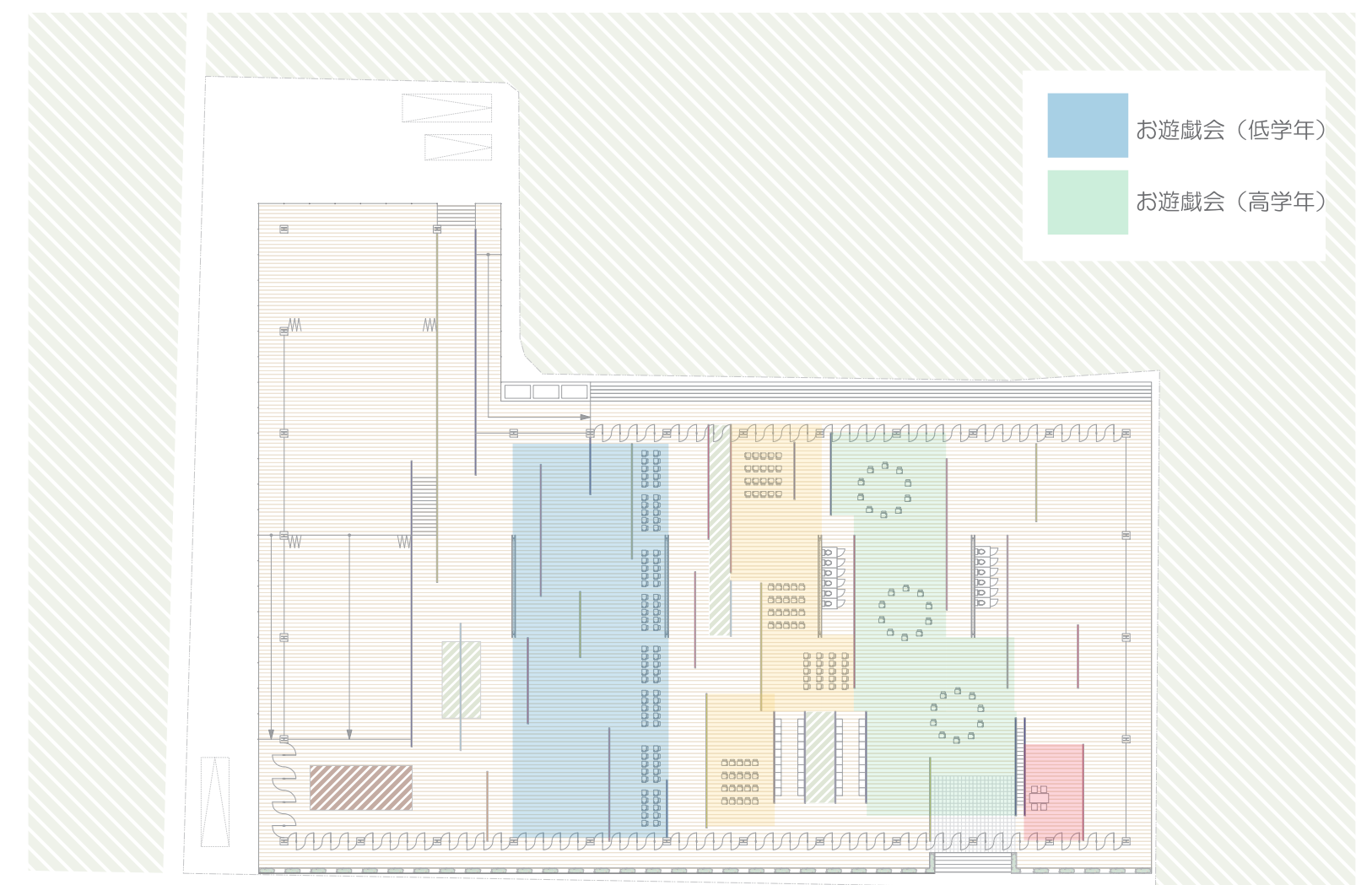
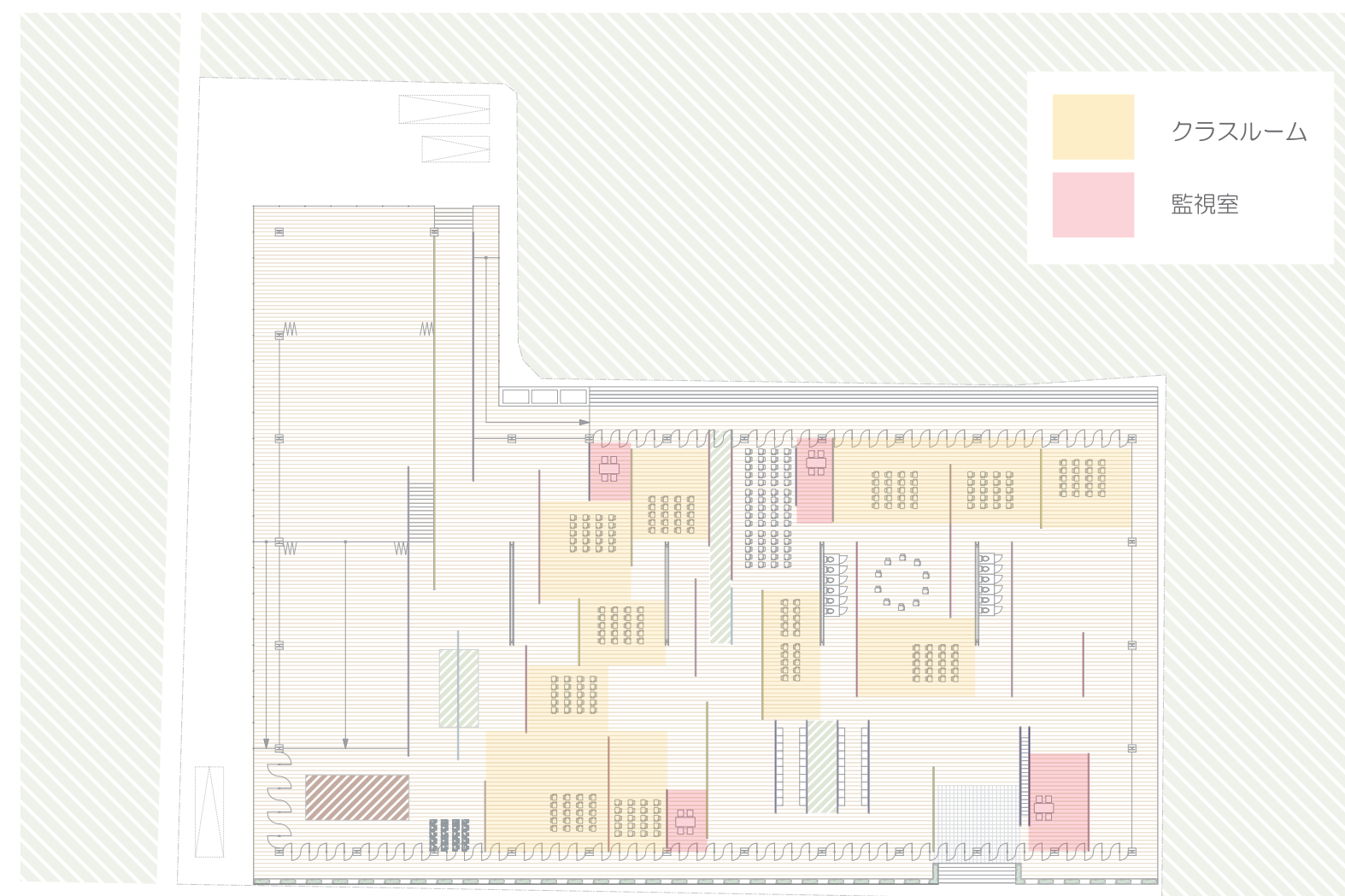


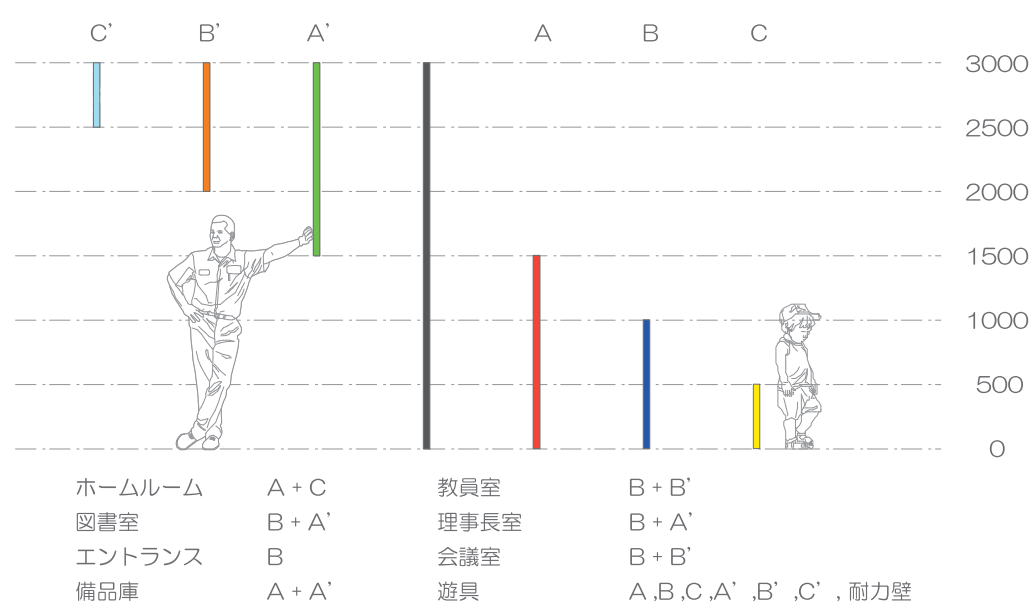
plan S: 1/200



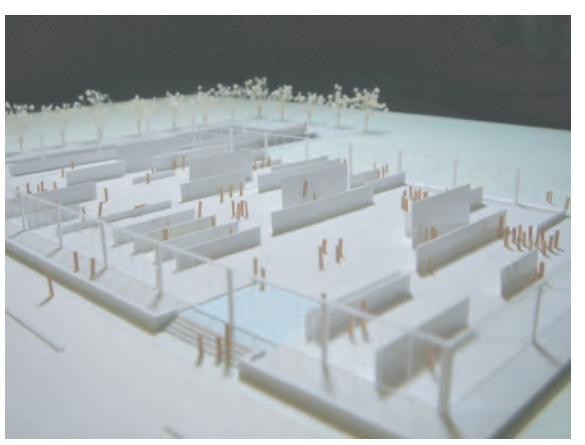
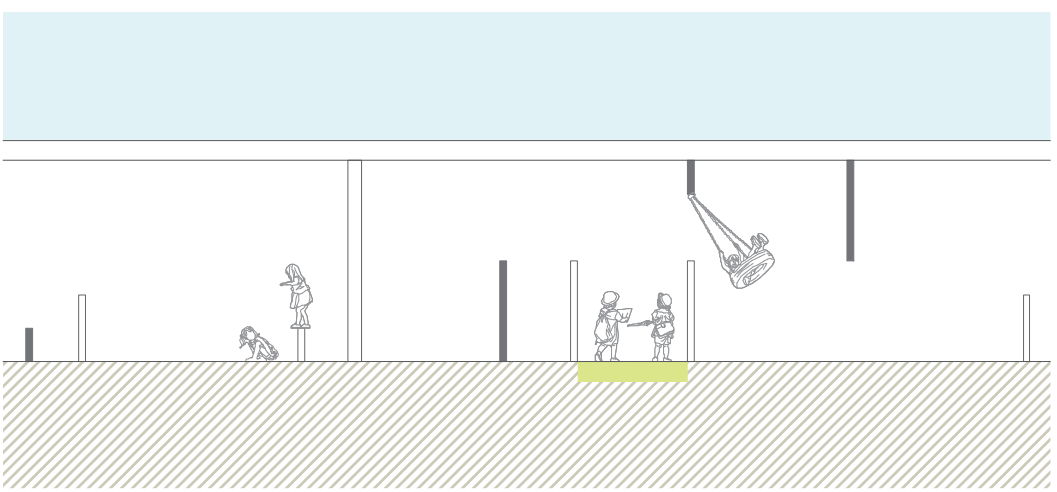
幼稚園の使い方

従来の幼稚園では空間を機能でしばっていたため、幼稚園内で行われる多くの行事や日常生活との「多様性と一様性」に無理が生じていた。しかし、この平面計画ではフレキシビリティと開放性が考えられているため、行事の人数の増減や性格、特徴などによって繋がった3部屋を使ったり、分散して使ったりと自由に部屋を選ぶことが可能である。

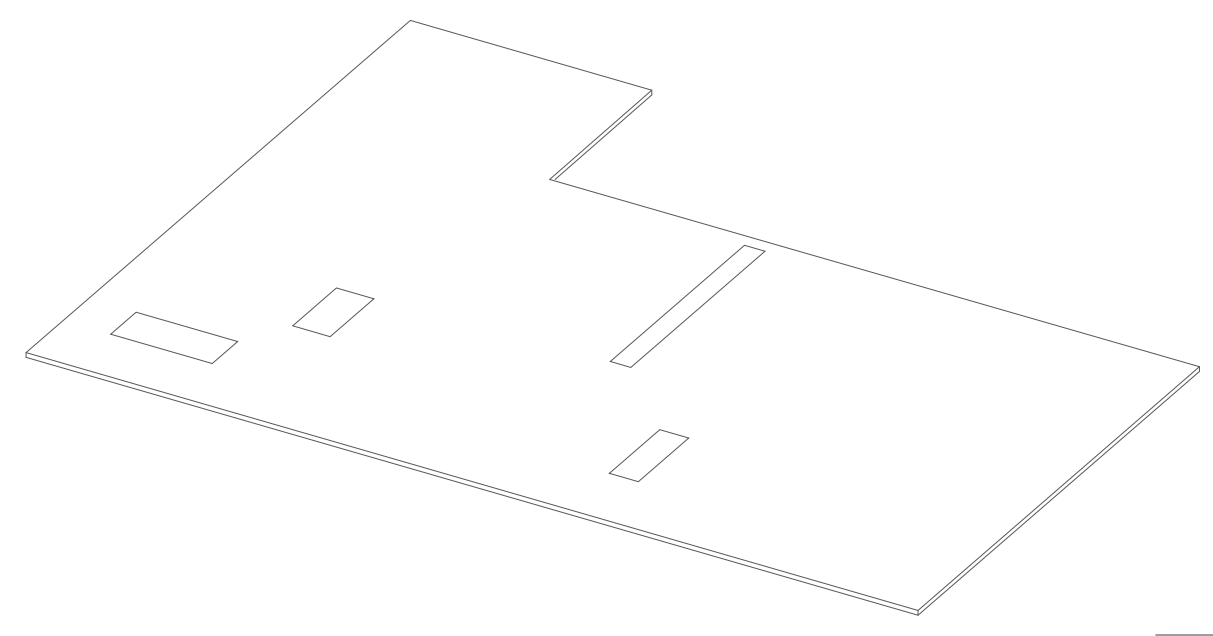
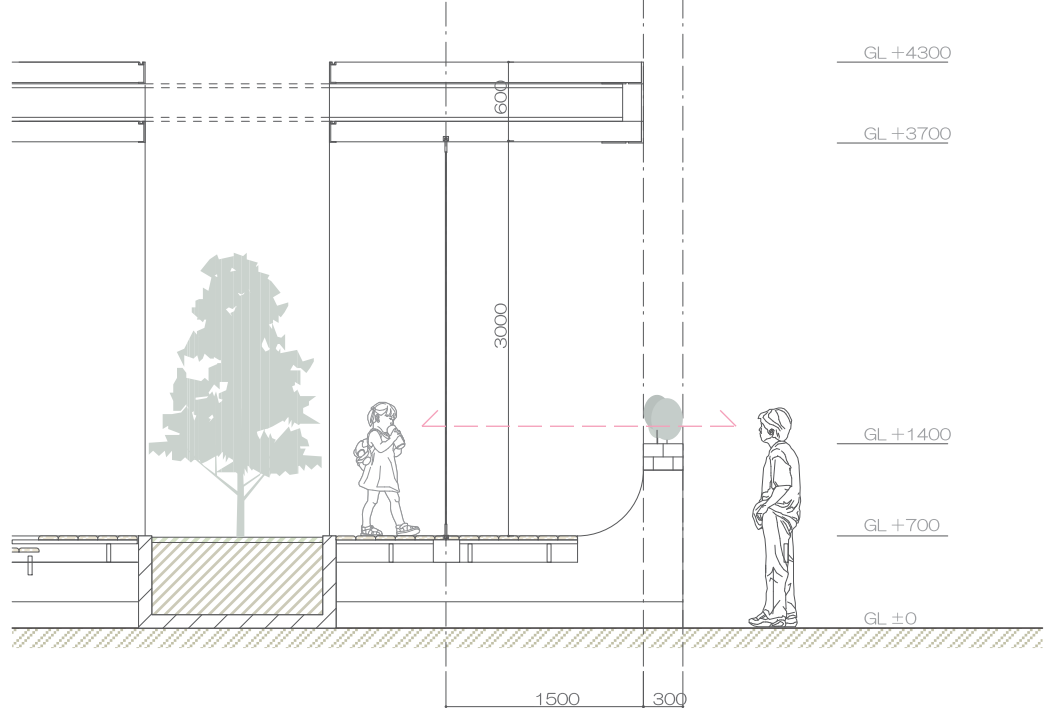




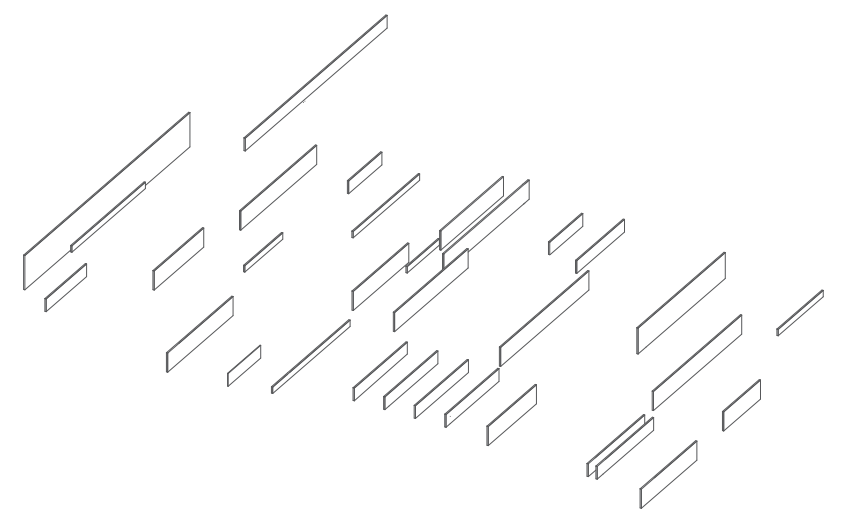
壁
 FL+500,+1000,+1500
 CH-500,-1000,-1500
 構造壁
 7種類の高さを持った壁を
 組み合わせ多様な空間をつ
 くる。



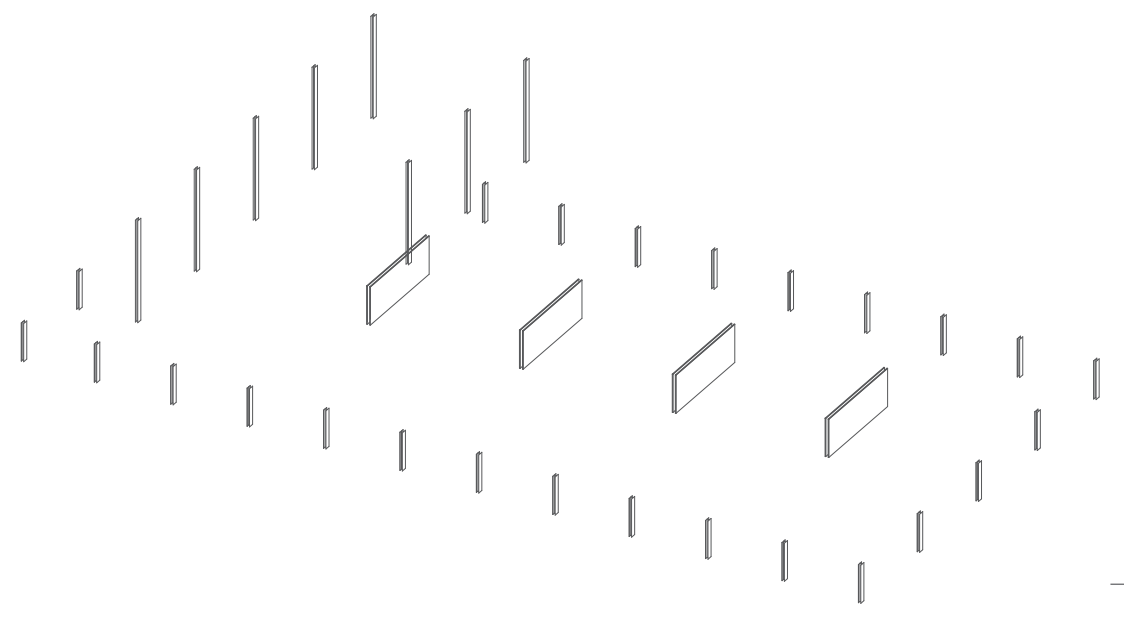
境界
 床をGL+700とし、その上に花壇を
 設けてセキュリティを確保する。
 園内をGL+700にし、園児と外部の
 大人が同レベルで視線を交わすこ
 とで、園児の意識は外へ、外部の大人
 の意識は園内へと交差する。
 また、境界の園内側をラウンドさせ、
 境界と建築を一体にすることで、境界
 壁の持つ閉塞感を和らげた。



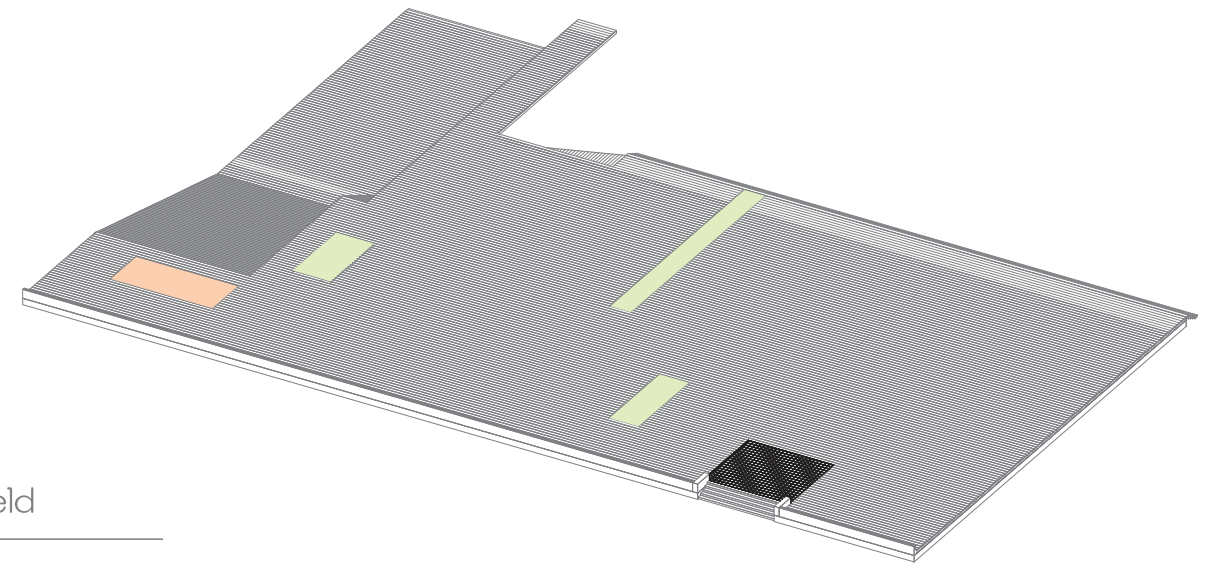
roof



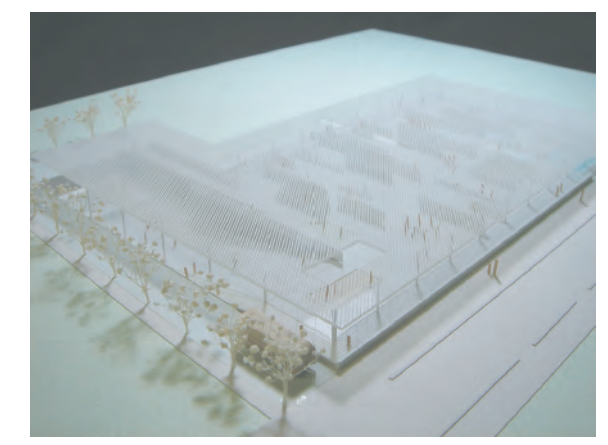
wall



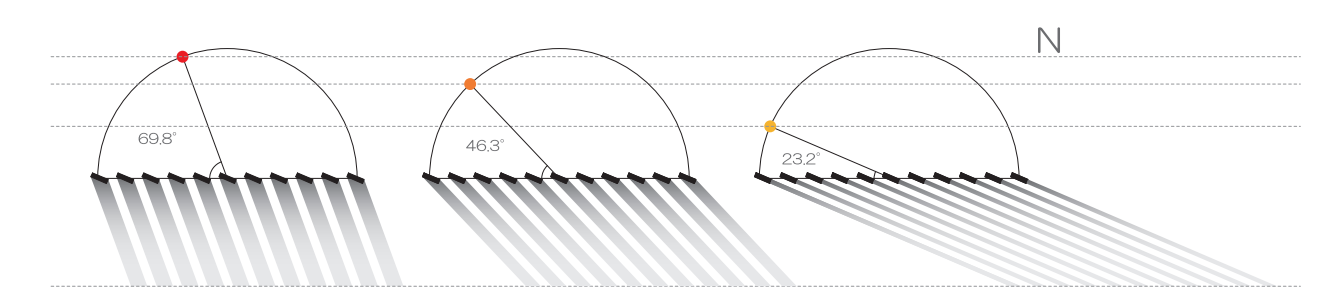
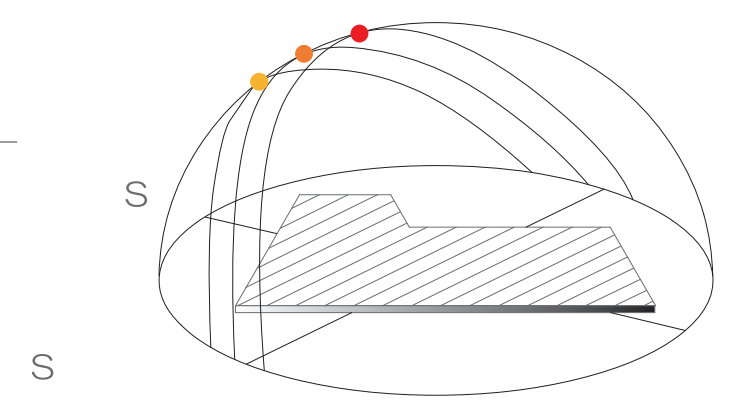
structure



field



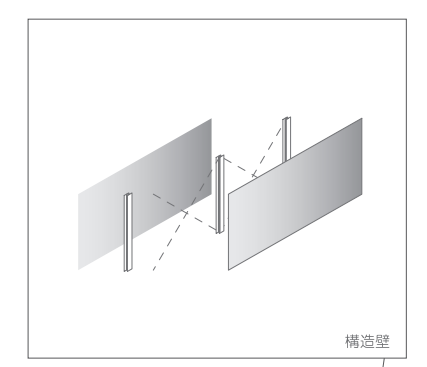
ルーバー
 東西軸に平行したルーバーによ
 り、一日を通して安定した日射が
 得られる。
 また、このルーバーを冬至の太陽
 高度である23.2°に傾けること
 で、太陽高度の高い夏季は日影を
 多く、太陽高度の低い冬季は日射
 を多く確保できる。



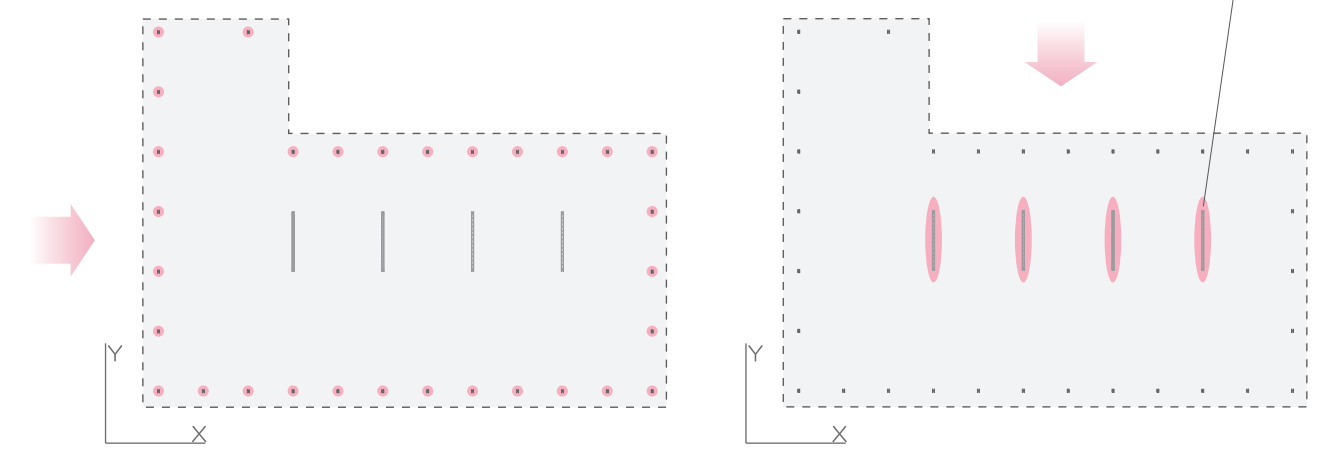
夏-12時-太陽高度69.8°
 日射遮蔽率 63.8%
 春秋-12時-太陽高度46.3°
 日射遮蔽率 57.4%
 春秋-12時-太陽高度23.2°
 日射遮蔽率 42.3%

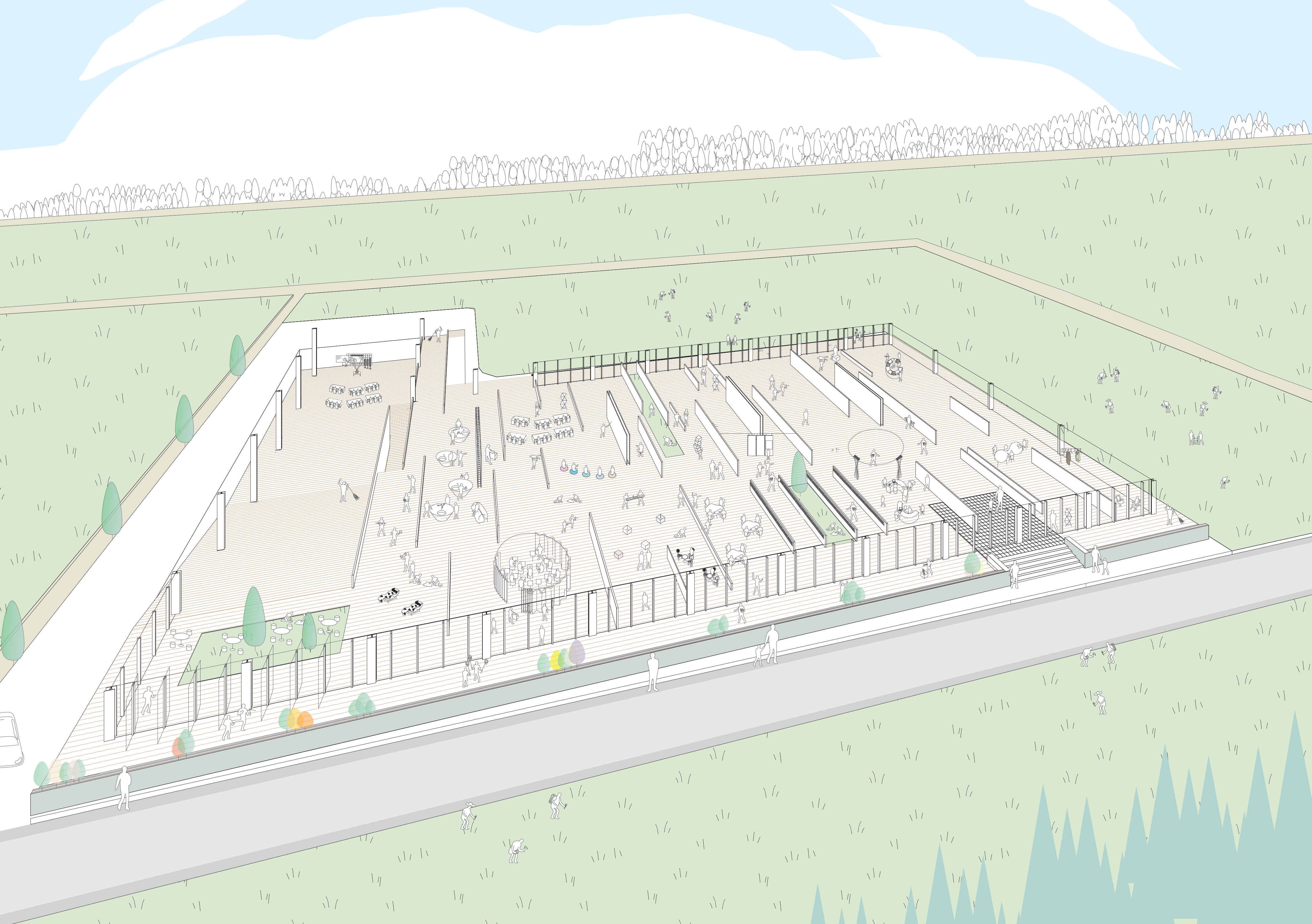


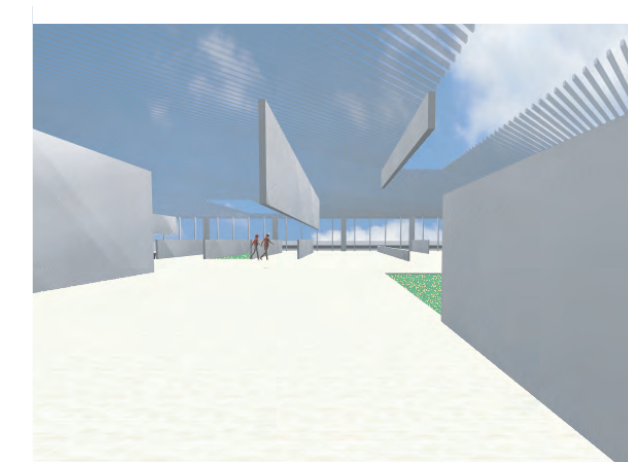
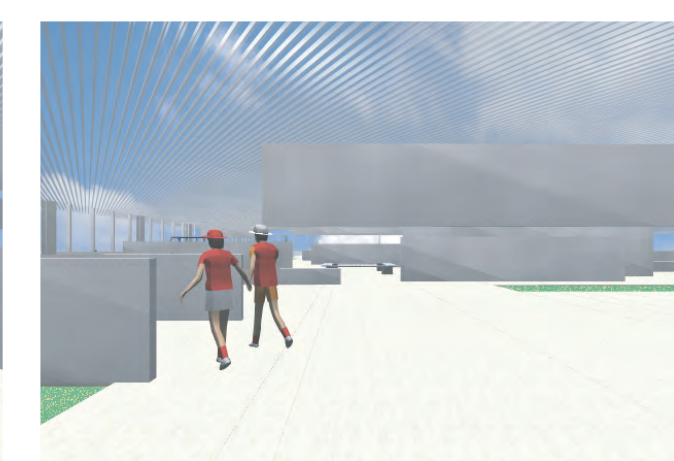
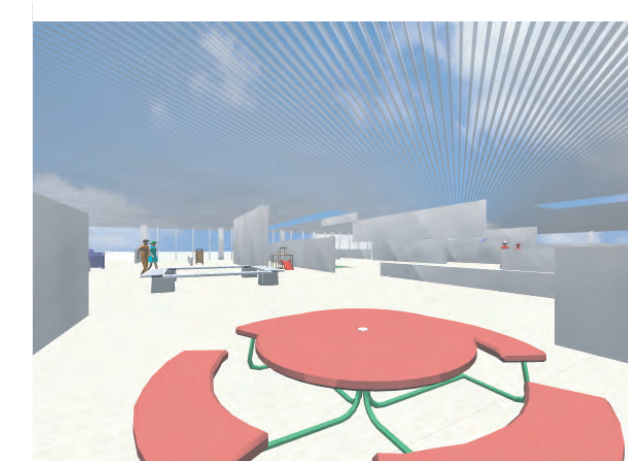
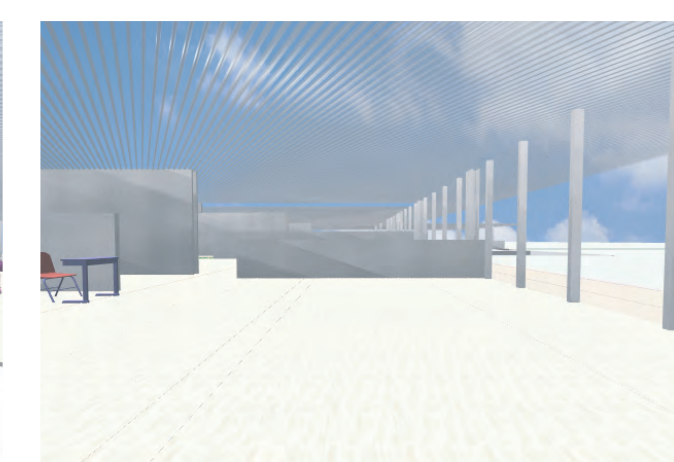
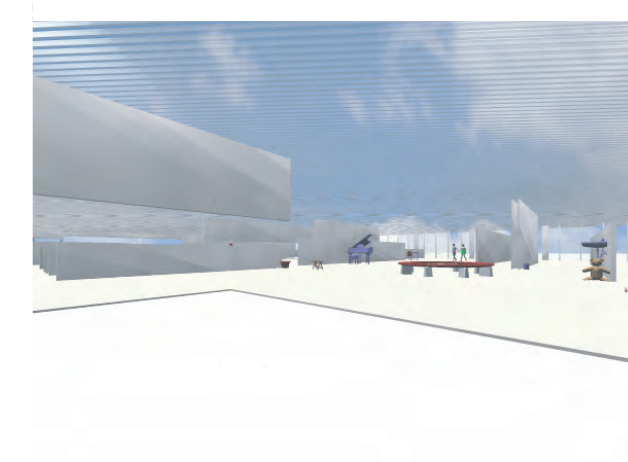
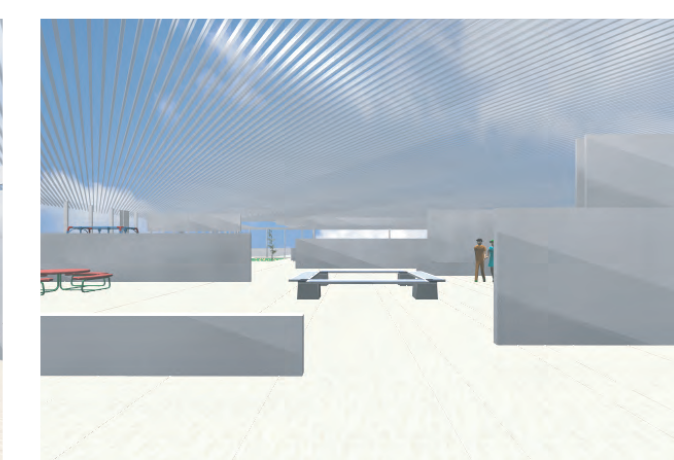
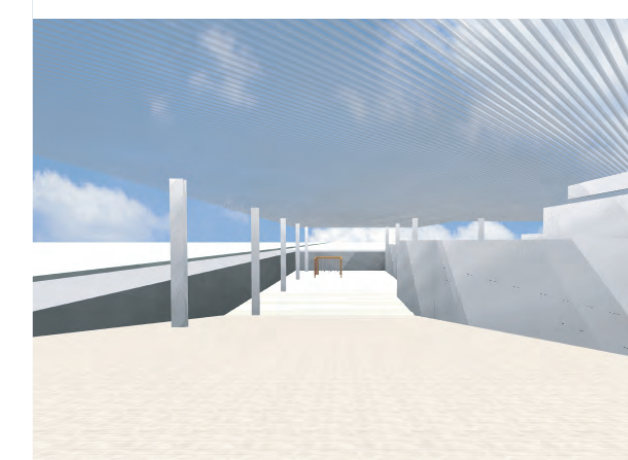
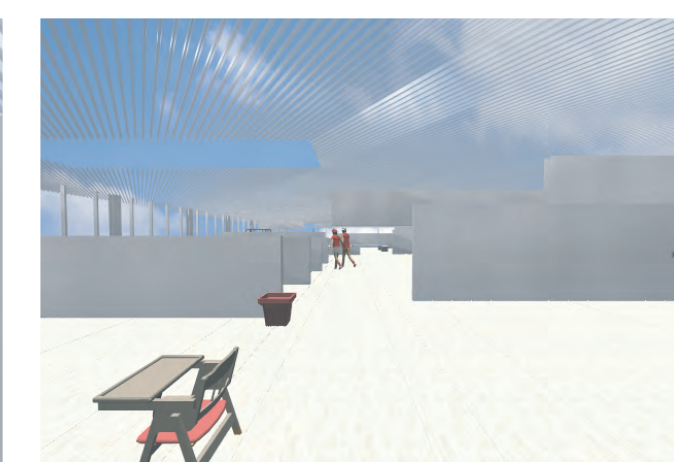
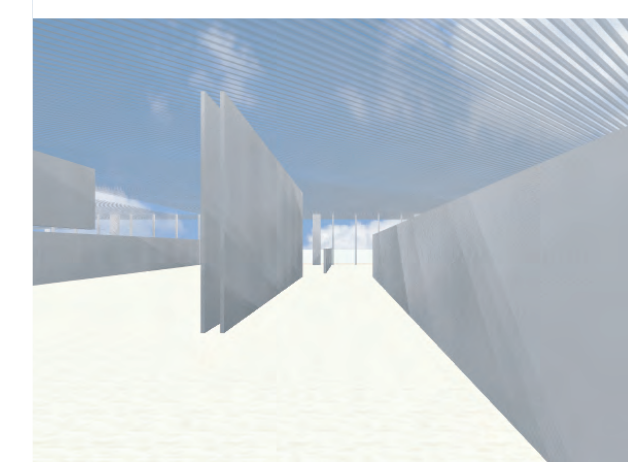
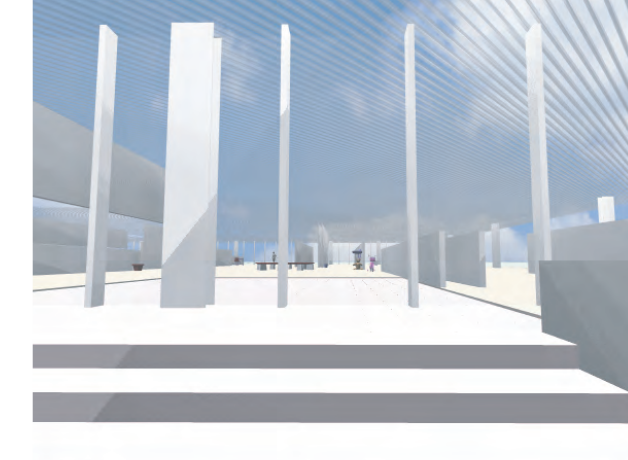
構造形式 鉄骨+壁
 屋根及び垂壁等の荷重
 は、外周の鉄骨によって
 負担する。
 また、この柱はX方向に
 作用する外力に対しての
 荷重も負担する。
 Y方向に作用する外力に
 対しては12mピッチで立
 てられた耐力壁によって
 負担する。
 この耐力壁は、H鋼にプ
 レースを張り、乾式の壁
 で挟むことで十分な耐力
 を確保している。



構造型







Kinds-Garden